

月例経済報告の変遷

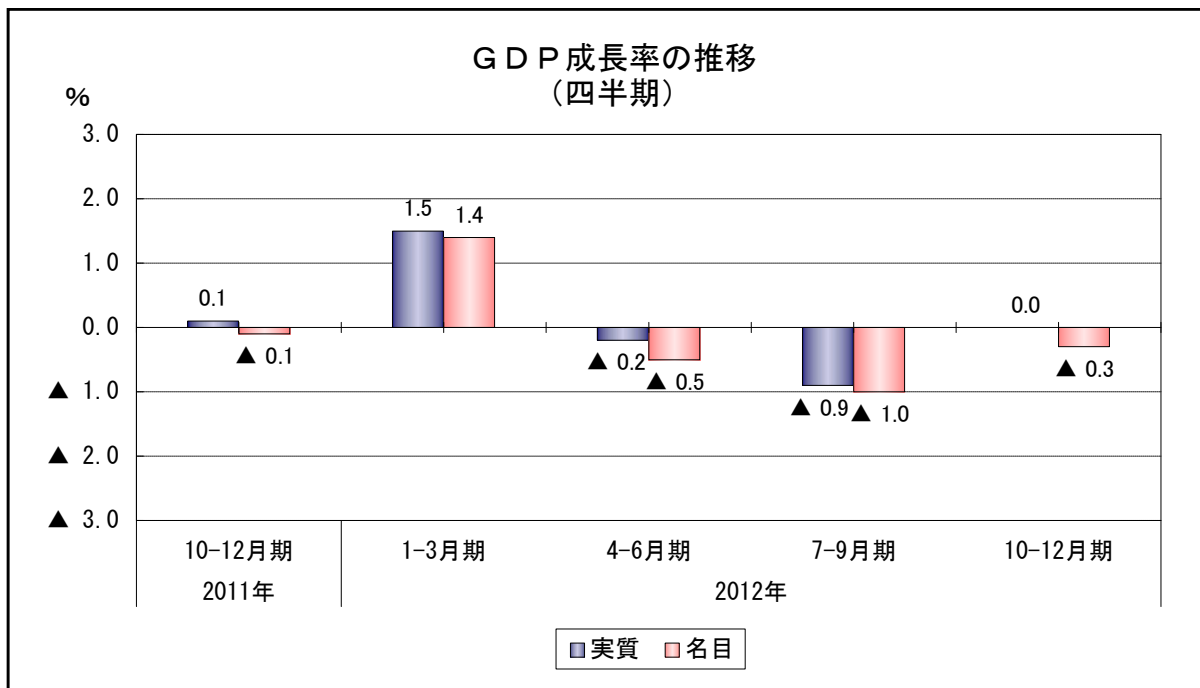
	平成25年	
	3月	4月
基 調 判 断	<p>景気は、一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出は、このところ緩やかに減少している。 ・生産は、持ち直しの動きがみられる。 ・企業収益は、大企業を中心に改善の兆しがみられる。 ・設備投資は、下げ止まりつつある。 ・企業の業況判断は、改善の動きがみられる。 ・雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。 ・個人消費は、底堅く推移している。 ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。 <p>先行きについては、当面、一部に弱さが残るものの、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き、デフレの影響等にも注意が必要である。</p>	<p>景気は、一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出は、下げ止まりつつある。 ・生産は、持ち直しの動きがみられる。 ・企業収益は、大企業を中心に改善の兆しがみられる。 ・設備投資は、下げ止まりつつある。 ・企業の業況判断は、改善の動きがみられる。 ・雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。 ・個人消費は、持ち直している。 ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。 <p>先行きについては、輸出環境の改善や経済対策、金融政策の効果などを背景に、マインドの改善にも支えられ、次第に景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、雇用・所得環境の先行き、デフレの影響等にも注意が必要である。</p>
個 人 消 費	底堅く推移している。	持ち直している。
設 備 投 資	下げ止まりつつある。	下げ止まりつつある。
住 宅 建 設	底堅い動きとなっている。	底堅い動きとなっている。
公 共 投 資	底堅い動きとなっている。	総じて底堅い動きとなっている。
輸 出 入	輸出は、このところ緩やかに減少している。 輸入は、横ばいとなっている。	輸出は、下げ止まりつつある。 輸入は、横ばいとなっている。
国 際 収 支	貿易・サービス収支の赤字は、増加傾向となっている。	貿易・サービス収支の赤字は、増加傾向となっている。
鉱 工 業 生産・出荷・在庫	生産は、持ち直しの動きがみられる。	生産は、持ち直しの動きがみられる。
企 業 の 動 向	企業収益は、大企業を中心に改善の兆しがみられる。 企業の業況判断は、改善の動きがみられる。	企業収益は、大企業を中心に改善の兆しがみられる。 企業の業況判断は、改善の動きがみられる。
倒 産 件 数	おおむね横ばいとなっている。	このところ緩やかに減少している。
雇 用 情 勢	雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。 完全失業率は、1月は前月比0.1%ポイント低下し、4.2%となった。	雇用情勢は、依然として厳しさが残るものの、このところ改善の動きがみられる。 完全失業率は、2月は前月比0.1%ポイント上昇し、4.3%となった。
政 策 態 度	<p>政府は、日本経済を大胆に再生させるため、大震災からの復興を前進させるとともに、「成長と富の創出の好循環」へと転換し、「強い経済」を取り戻すことに全力で取り組む。円高是正、デフレからの早期脱却のため、デフレ予想を払拭するとともに、機動的・弾力的な経済財政運営により、景気の底割れを回避する。特に、最近、景気回復への期待等を背景に、株価の回復等もみられており、こうした改善の兆しを、適切な政策対応により景気回復につなげる。</p> <p>このため、政府は、平成24年度補正予算を含めた緊急経済対策の迅速かつ着実な実行に向けて、しっかりとした進捗管理を行うとともに、平成25年度予算及び関連法案の早期成立に努める。また、2月28日に「平成25年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」を閣議決定した。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現するよう、大胆な金融緩和を推進することを期待する。</p>	<p>政府は、日本経済を大胆に再生させるため、大震災からの復興を前進させるとともに、「成長と富の創出の好循環」へと転換し、「強い経済」を取り戻すことに全力で取り組む。円高是正、デフレからの早期脱却のため、デフレ予想を払拭するとともに、機動的・弾力的な経済財政運営により、景気の底割れを回避する。特に、最近、景気回復への期待等を背景に、株価の回復等もみられており、こうした改善の兆しを、適切な政策対応により景気回復につなげる。</p> <p>このため、政府は、平成24年度補正予算を含めた緊急経済対策の迅速かつ着実な実行に向けて、しっかりとした進捗管理を行うとともに、平成25年度予算及び関連法案の早期成立に努める。</p> <p>日本銀行は、4月4日、2%の物価安定目標を、2年程度の期間を念頭に置いて、できるだけ早期に実現するため、マネタリーベースの倍増、長期国債買入れの拡大と年限長期化等を内容とする「量的・質的金融緩和」の導入等を決定した。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>

(備考)下線部は、先月から変更した部分。

○2012(平成24)年10~12月期四半期別GDP速報(2次速報値)

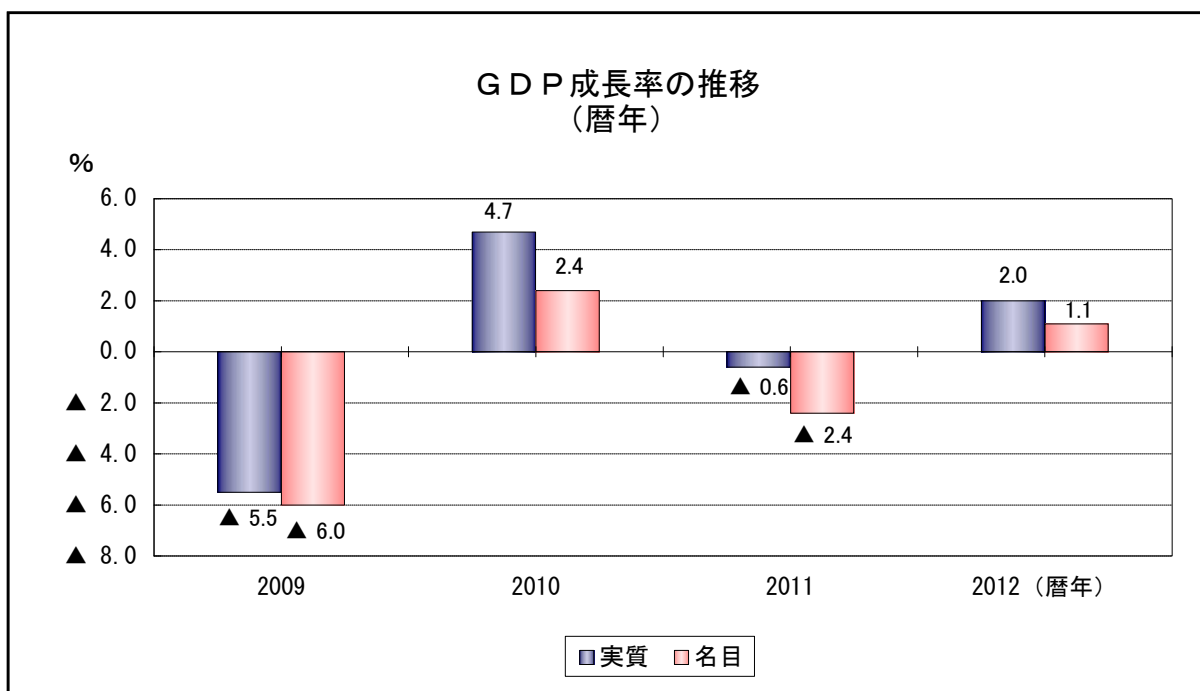
・GDP成長率(季節調整済前期比)

2012年10~12月期の実質GDP(国内総生産・2005暦年連鎖価格)の成長率は、0.0%(年率0.2%)となった。また、名目GDPの成長率は、▲0.3%(年率▲1.3%)となった。



・2012年のGDP

2012年の実質GDP成長率は2.0%、名目GDP成長率は1.1%となった。



○平成25年度の政府経済見通し（主要経済指標）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度比増減率					
	(実績)	(実績見込み)	(見通し)	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	兆円 (名目)	兆円程度 (名目)	兆円程度 (名目)	% (名目)	% (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)	%程度 (名目)	%程度 (実質)
国内総生産	473.3	474.9	487.7	▲ 1.4	0.3	0.3	1.0	2.7	2.5
民間最終消費支出	287.3	289.2	294.2	0.9	1.5	0.7	1.2	1.7	1.6
民間住宅	13.5	13.8	14.8	4.2	3.7	2.3	3.1	7.5	6.8
民間企業設備	63.8	63.1	65.4	3.1	4.1	▲ 1.1	▲ 0.7	3.6	3.5
民間在庫品増加 ()内は寄与度	▲ 2.8	▲ 2.4	▲ 2.0	(▲ 0.5)	(▲ 0.5)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)
政府支出	117.9	121.6	125.8	0.9	0.9	3.1	4.2	3.5	3.1
政府最終消費支出	98.4	99.7	99.7	1.3	1.5	1.6	2.9	1.3	1.1
公的固定資本形成	21.0	23.2	26.2	▲ 1.6	▲ 2.3	10.2	10.2	13.0	11.9
財貨・サービスの輸出	70.9	69.0	73.6	▲ 3.9	▲ 1.6	▲ 2.8	▲ 1.8	6.8	4.3
(控除)財貨・サービスの輸入	77.3	79.3	84.2	11.2	5.3	2.5	4.0	6.2	3.7
内需寄与度				0.8	1.3	1.2	1.9	2.7	2.5
民需寄与度				0.6	1.0	0.4	0.8	1.8	1.7
公需寄与度				0.2	0.2	0.8	1.0	0.9	0.8
外需寄与度				▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.9	▲ 0.0	0.0
国民所得	346.8	349.1	358.9	▲ 1.6		0.7		2.8	
雇用工報酬	245.3	244.8	247.9	0.6		▲ 0.2		1.2	
財産所得	19.7	19.7	20.7	▲ 2.4		▲ 0.2		5.1	
企業所得	81.7	84.5	90.3	▲ 7.3		3.4		6.8	
労働・雇用	万人	万人程度	万人程度		%		%程度		%程度
労働力人口	6,578	6,547	6,550		▲ 0.8		▲ 0.5		0.0
就業者数	6,279	6,270	6,297		▲ 0.3		▲ 0.1		0.4
雇用者数	5,501	5,511	5,559		▲ 0.1		0.2		0.9
完全失業率	%	%程度	%程度						
	4.5	4.2	3.9						
生産	%	%程度	%程度						
鉱工業生産指数・増減率	▲ 1.0	▲ 2.9	3.4						
物価	%	%程度	%程度						
国内企業物価指数・変化率	1.4	▲ 1.2	0.8						
消費者物価指数・変化率	▲ 0.1	▲ 0.1	0.5						
GDPデフレーター・変化率	▲ 1.7	▲ 0.6	0.2						
国際収支	兆円	兆円程度	兆円程度		%		%程度		%程度
貿易・サービス収支	▲ 5.3	▲ 9.3	▲ 9.3						
貿易収支	▲ 3.5	▲ 6.4	▲ 6.6						
輸出	62.6	61.0	65.3		▲ 2.8		▲ 2.5		7.0
輸入	66.1	67.4	72.0		14.0		2.0		6.8
経常収支	7.6	4.4	5.0						
経常収支対名目GDP比	%	%程度	%程度						
	1.6	0.9	1.0						

注1) 消費者物価指数は総合である。

注2) 労働・雇用の平成23年度については岩手県、宮城県及び福島県について補完的に推計した全国値。

注3) 世界GDP(日本を除く)、円相場、原油輸入価格については、以下の前提を置いている。なお、これらは、作業のための想定であって、政府としての予測あるいは見通しを示すものではない。

	平成23年度 (実績)	平成24年度	平成25年度
世界GDP(日本を除く)の 実質成長率(%)	3.4	2.4	2.9
円相場(円/ドル)	79.0	81.9	87.8
原油輸入価格(ドル/バレル)	114.1	113.6	112.5

備考)

1. 世界GDP(日本を除く)の実質成長率は、国際機関等の経済見通しを基に算出。

2. 円相場は、平成24年12月26日～平成25年1月18日の期間の平均値(87.8円/ドル)が平成25年1月21日以後一定と想定。

3. 原油輸入価格は、スポット価格の前月平均値に運賃、保険料を付加した値。スポット価格は、平成24年12月26日～平成25年1月18日の期間の平均値が平成25年1月21日以降一定と想定。平成25年2月以降の原油輸入価格(112.5ドル/バレル)で一定と想定。

※ 本経済見通しに当たっては、「2. 平成25年度の経済財政運営の基本的態度」に記載された経済財政運営を前提としている。

※ 我が国経済は民間活動がその主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見しがたい要素が多いことを鑑み、上記の諸係数はある程度幅を持って考えられるべきものである。

資料：内閣府「平成25年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度（平成25年2月28日閣議決定）」

○ 海外主要国の経済成長率の見通し

IMFの世界経済見通し（平成25年4月16日発表）

	2013年予測	2014年予測
日 本	1.6	1.4
米 国	1.9	3.0
ユーロ圏	0.3	1.1
中 国	8.0	8.2
世界計	3.3	4.0

注) 単位：%、実質GDP成長率の前年比。

OECDの世界経済見通し（平成24年11月27日発表）

	2012年予測	2013年予測	2014年予測
日 本	1.6	0.7	0.8
アメリカ	2.2	2.0	2.8
ユーロ圏	0.4	0.1	1.3
加盟国計	1.4	1.4	2.3

注) 単位：%、実質GDP成長率の前年比

アジア開発銀行のアジア大洋州主要国・地域別の経済成長見通し

（平成25年4月9日発表）

	2013年予測	2014年予測
地域全体	6.6	6.7
中 国	8.2	8.0
香 港	3.5	3.8
韓 国	2.8	3.7
台 湾	3.5	3.9
イ ン ド	6.0	6.5
インドネシア	6.4	6.6
マレーシア	5.3	5.5
フィリピン	6.0	5.9
シンガポール	2.6	3.7
タ イ	4.9	5.0
ベトナム	5.2	5.6

注) 単位：%、実質GDPの前年比伸び率

○日銀の経済見通し

（平成25年1月22日公表「物価安定の目標」と「期限を定めない資産買入れ方式」の導入について」）

—対前年度比、%。なお、<>内は政策委員見通しの中央値。

	2012年度		2013年度		2014年度	
		10月時点		10月時点		10月時点
実質GDP 大勢見通し	+1.0~+1.1	+1.4~+1.6	+1.9~+2.5	+1.3~+1.8	+0.6~+1.0	+0.2~+0.7
	< +1.0 >	< +1.5 >	< +2.3 >	< +1.6 >	< +0.8 >	< +0.6 >
" 全員見通し	+0.9~+1.1	+1.2~+1.7	+1.8~+2.5	+1.0~+1.8	+0.2~+1.3	+0.1~+0.8

注1) 「大勢見通し」は各政策委員が最も蓋然性の高いと考える見通しの数値について、最大値と最小値を1個ずつ除いて、幅で示したものであり、その幅は、予測誤差などを踏まえた見通しの上限・下限を意味しない。

2) 各政策委員は、政策金利について市場金利に織り込まれたとみられる市場参加者の予想を参考にしつつ、上記の見通しを作成している。